

SDGs未来都市等進捗評価シート

2020年度選定

静岡県富士市

2021年8月

SDGs未来都市計画名

自治体SDGsモデル事業
又は特に注力する先導的取組

富士市 SDGs 未来都市計画
富士山とともに 輝く未来を拓くまち ふじ

—

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(1) 計画タイトル

富士市SDGs未来都市計画 富士山とともに輝く未来を拓くまち ぶじ

(2) 2030年のあるべき姿

目指す都市像を「富士山のように、高みを目指す「ものづくり」のまち【経済】」「富士山の麓で、市民一人ひとりがいきいきと輝くまち【社会】」「富士山に見守られ、安全に安心して暮らせるまち【社会】」「富士山の恵みを、みんなで守り、育て、ともに生きるまち【環境】」と掲げ、経済、社会、環境の3側面が調和した持続可能な発展を実現させていく。また、ICT技術や民間事業者の創意工夫を最大限に活かし、官民パートナーシップによるイノベーションの創出・地域力の結集・見える化により、他社を巻き込んだイノベーションを先導し、富士市から「世界を変える取組」を実現させ、輝く未来を拓いていく。

(3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール



(4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※口内はゴール・ターゲット番号	当初値	2020年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	市内総生産	2018年3月 11,689 億円	2019年3月 11,811 億円	2030年 12,075 億円	32%
2	CNFを活用し、製品化した市内事業所数	2018年3月 1 社	2020年 10 社	2030年 12 社	82%
3	民間から資金調達を行い実行したプロジェクトの件数	2020年3月 0 件	2020年 0 件	2030年 18 件	0%
4	SDGsの達成に向け、行動宣言をしている市民の数	2020年3月 0 人	2020年 77 人	2030年 1,000 人	8%
5	ユニバーサル就労実現者数	2020年3月 98 人	2020年 213 人	2030年 1,300 人	10%
6	企業等との災害時応援協定締結数	2020年3月 190 団体	2020年 200 団体	2030年 220 団体	33%
7	富士山麓ブナ林創造事業植樹累計面積	2020年3月 17.08 ha	2020年 18.08 ha	2030年 28.08 ha	9%
8	森林の創造面積	2020年3月 20 ha	2020年 20.3 ha	2030年 23.2 ha	9%
9	市内太陽光発電導入量	2020年3月 96,635 kw	2020年 105,515 kw	2030年 121,300 kw	36%

1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

(5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

「市内総生産」については、静岡県公表の最新値が平成30年度（2019年3月）ですので、その値となっています。

「C N Fを活用し、製品化した市内事業所数」「市内太陽光発電導入量」の達成度が高くなっていますが、より一層の利用拡大を図ります。

課題として、「民間から資金調達を行い実行したプロジェクトの件数」について実績がないため、2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組を具体化していくための産官学金が連携したプロジェクトを組成し実現化していくための富士市SDGsプラットフォームについて、2021年度中に構築し関係者との連携を図ることが必要です。

1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2020年～2022年

(1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2018年実績	2019年実績	2020年実績	2022年目標値	達成度(%)
1	新産業を始めとした多彩な産業の振興	製造品出荷額等	2018年3月 13,816 億円			2020年 14,250 億円	2022年 15,839 億円	21%
2	一人ひとりが輝ける働き方の実現	ユニバーサル就労実現者数	2020年3月 98 人			2020年 213.0 人	2022年 500 人	29%
3	一人ひとりが輝ける働き方の実現	多様な働き方を推進する事業所の割合	2018年3月 21.9 %			2020年 28.5 %	2022年 35.0 %	50%
4	持続可能な社会の創り手・担い手を育む	コミュニティ・スクール設置校	2020年3月 10 校			2020年 18.0 校	2022年 32 校	36%
5	災害に強い安全・安心なまち	自主防災組織の訓練の実施状況（実施率）	2020年3月 72.6 %			2020年 44.7 %	2022年 73.7 %	-2536%
6	富士山及び駿河湾の自然環境の保全	民有林の間伐施業面積	2020年3月 7,468 ha			2020年 7,665 ha	2022年 8,007 ha	37%
7	環境共生社会の推進	市内における再生可能エネルギー発電量（推計）	2018年度 993,317 MWh			2020年度 1,058,470 MWh	2022年度 1,100,000 MWh	61%
8	環境共生社会の推進	公共施設からのエネルギー起源CO2排出量増減率（2013年比）	2020年3月 5.8 %増加			2020年 -11.4 %増加	2022年 -9.4 %増加	113%
9	環境活動・環境教育の推進	こどもエコクラブ加入率	2020年3月 5.4 %			2020年 3.9 %	2022年 6.3 %	-167%

(2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

地域事業者等との官民連携を軸として実施した「環境共生社会の推進」において、民間の持つ技術や資金、行政のもつ資産や施策等がうまくかみ合うことで、非常に高い成果が得られています。この成果を活かし、規模の大小を問わず民間の持つノウハウや推進力を最大限発揮できるよう、現在構築を進めている「富士市SDGsプラットフォーム」においては、身近で小さな提案・相談から先導的な取り組みまでをSDGs達成に向けたプロジェクトへ組み込んでいく仕組みとし、また、企業・団体がSDGsに資する活動を進めていくためのインセンティブを高めるため、当初登録制度のみを計画していたが、多くの事業者が参加し、段階的に取組を進められるよう、宣言制度・登録制度の2段階制度を用意することを予定しています。

2021年度中に富士市SDGsプラットフォームを発足できるよう、昨年度から、準備会合を開催し商工団体、学識者、金融機関等とプラットフォームにおけるプロジェクト組成の支援体制の構築に向け意見を交わしており、2021年9月現在、支援体制の役割分担等について最終調整を行っています。

(3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

SDGsの推進に資する取組について、概ね2022年目標達成に向けて着実に進んでいます。

中でも、「公共施設からのエネルギー起源CO2排出量」については、地産電力の活用などにより、2022年目標を上回りました。脱炭素社会の実現に向け更なる削減を進めるとともに、成功事例として周知展開していきます。

しかしながら、「自主防災組織の訓練の実施状況」及び「こどもエコクラブ加入率」について、新型コロナウイルス感染症対策のため、目標値を大きく下回りました。

「自主防災組織の訓練の実施状況」は、地域防災訓練及び土砂対策訓練の中止が大きく影響しているため、今後は、新型コロナウイルス感染症状況を見極めながら、訓練実施に向け、自主防災会に働きかけを行います。

「こどもエコクラブ加入率」も、代替活動としてインターネットを活用した啓発などを行いましたが、活動やイベントの中止により周知が不十分となったことから加入率が減少しましたので、新型コロナウイルス感染症状況を見極めながら、元の活発な活動に戻るよう計画的に組織の立て直しを図ります。

(4) 有識者からの取組に対する評価

・経済、社会、環境に留意した統合的取組が展開されており、地域経済の活性化に留意した取組も具体的で高く評価できる。また、自律的好循環の取組も活発である。

・コロナ禍の影響を受けながらも具体的な成果があがっており、順調なスタートと思われるが、まだ三側面の統合的な繋がり、相乗効果、自律的好循環への道筋がよく見えなため、今後に期待する。

・取組概要において、SDGsとの関連が説明されていない。この点について改善の余地があると思料する。